

館報

おおくま

おもな内容

- 2面……新年のごあいさつ
- 3面……清流
- 4・5・6面……新年を迎えて
- 7面……心が一つになる時
- 8面……文芸
- 9面……みんなのひろば
- 10面……町史探訪

発行編集 大熊町公民館
印刷所 新栄社写真美術印刷(株)



いのしし君
が
ん
ば
れ

いのしし君
君はいつたい
この十年の間
どこへ行っていただんたい
犬君が、君の来るのを
心配して、待っていたよ
今年、君が地球の番人なんだよ
君はいつたい何歳だい
ほくは今年六年生
小学校最後の学校生活を
くいのないようにやりたいんだよ
だから
ほく達に力を貸してくれよな
今年一年間
よろしくたのむよ、
いのしし君
大野小学校 五年 鈴木 裕平
(写真は、大野小学校五年生 友生
まれの元気なみなさん)

新年のごあいさつ

教育長 太田芳一郎



新しい年を迎え、つつしんで町民の皆様方のご健勝をおよろこび申し上げます。顧みますと昨年度大熊町政の主力は町長のご決意により、教育行政に最も力を注いでいただいた年であったと吾々教育担当者並びに町民が感謝を申し上げているところであります。

即ち大野小学校の第二期工事が昨年三月完成したのを始め、町の自主財源による同校室内運動場・プール・環境整備・体育機器・遊具の設置と、一気に整備を完了したものであり、又熊町小学校の整備にも予算をいただき、外装工事

・サッシ戸交換・屋上防水工事が完了し、見違える程立派になりました。誠に大熊町教育百年の大計に沿った町施策に衷心より御礼を申し上げます。以上のことから、昭和五十八年度は次の二点を基本に教育全般に亘って推進して参りたいと思っております。先ず第一は学校教育をめざす学校教育を進めます。昨年十月八日大熊町公共施設総合落成式が挙行されましたが、その中核となったのは大野小学校全施設でありました。町長式辞の中で、「器は立派に出来たが中味は頼むぞ」と言う意の教育関係者に対する言葉がありました。町内学校施設は幼稚園舎を含めすばらしい学校舎になりました。教育委員会は学校長始め教育関係者共々明日の

大熊町を担う子供達を心豊かな心身とも健康な人間に育成することを教育理念として努力をつづけ、町長はじめ地域の方々の期待にこたえたいと思っております。第二は社会教育と社会体育の推進であります。生涯教育が叫ばれて久しいがその間町民の皆さんがそれぞれの年代に於いて、それぞれ学習をすすめてきましたことはそれを窓口となつて推進した公民館関係者の努力は勿論であります。町民各位の学習意欲も年毎高まり、よろこびに堪えません。今後青少年の健全育成を主眼に学校教育と家庭教育が密接に、しかも社会教育との強い連携を持ちながら、その効果をあげていきたいと思っております。特に五十五年度より力を入れてきました部落分館活動をより一層幅広くもりあげ、家庭への浸透を図るよう計画をすすめて、公民館関係

機関にも協力を呼びかけているところであります。又町民各位の健康増進と体力の向上を願い、生活をより豊かにするために各種スポーツの普及と奨励に努めてきましたが、昨年末には町総合グラウンドも実質的に完成し、ここに町体育施設は完備されました。今年度は、これら施設利用の高率化を図り、健康で明るい町づくりに大きく寄与されることを期待しております。瀬戸山新文部大臣も、「文部行政は人づくりであり、教育・学術・文化・体育各方面にわたる、世界に貢献し得る人材養成を重視したい」との談話を発表しました。人づくりのため、町民皆様方の変わらぬご支援を切にお願い申し上げますとともに年の初めにあたり、皆様の一層のご多幸をお祈りいたしまして新年のごあいさつといたします。

今年、社会教育の充実と



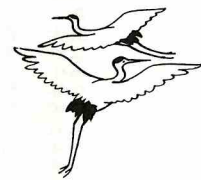
公民館長 志賀友定

皆さん、明けましておめでとうございます。ここに希望の新春を迎えるにあたり、皆さんのご清福とご繁栄を心からお祈りいたします。

皆さん、明けましておめでとうございます。ここに希望の新春を迎えるにあたり、皆さんのご清福とご繁栄を心からお祈りいたします。

公民館の諸事業につきましては、皆々様の力強い、心からの激励、ご指導、ご協力によりまして、着々とその成果をあげ推進しておりますこと厚く御礼申し上げます。皆様方ひとりひとりの学習の場として……

私達、職員一同本年も心をあらたにし、地域社会における課題と総合的にとりくみ、諸団体・諸機関と連絡調整をはかり、地域社会発展の原動力となるようがんばって参ります決意でございます。皆様方の変らぬご鞭撻・ご協力を心からお願い申し上げますと同時に、皆様方のご健康と御多幸をお祈りし、新春のごあいさつといたします。



新年おめでとう

公民館編集委員

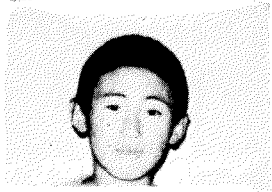
- 松本幸一 井戸川俊正
- 木幡キサ 石田キミ子
- 島 覚 鎌田清衛
- 佐々木親兵衛
- 大熊町公民館職員一同

謹賀新年

- | | |
|-------------|--------|
| 教育委員長 | 井戸川 清隆 |
| 社会教育委員長 | 志賀 秀朗 |
| 公民館運営審議会委員長 | 渡 辺 清 |
| 体育指導委員長 | 常 盤 利昭 |

マラソン大会に参加して

大小三年 愛 場 勝

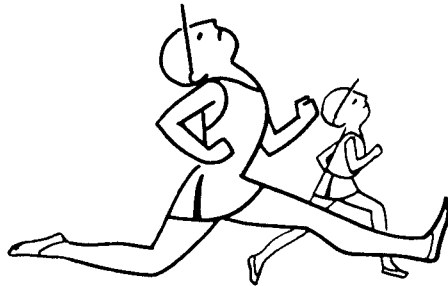


ぼくは、小学生低学年の部で一番早くゴールインしました。そして賞状と賞品をもらうとき、やった！といううれしい気持ちがこみあげてきました。また来年も一位になりたいなあと思います。

十一月二十三日マラソン大会がありました。レースは 九時半にスタートしました。ぼくは、始めから速い人についていけと言われたので、始めからとばしました。途中で息が苦しくなったが、大

きく息をすったりはいたりして、たらずこしらくなりしました。半分位過ぎてからぼくの前に三人走っていました。一人をぬき、ぼくはあと二人ともぬかしてやろうとしたが、前の二人がなかなかぼくをぬかしてくれませんでした。道路の端の方を走り、あるだけの力をふりしほって走ったら二人ともおいぬくことができ、そのあとは夢中で走りました。

野球場の坂道は一番苦しく、歩こうという気持をおしきってのほりました。上にいくとお父さんやよそのお母さん達が拍手でむかえてくれました。



公民館を見学して

熊小四年 末 永 雄 一

十月十九日、ぼくたちは先生につれられて公民館を見学しました。ぼくたちは社会科で人々のくらしをゆたかにするためにいろいろなことが考えられており、その一つに公民館がつくられているということを知りました。大熊町でも公民館があると知っていました。公民館といえは大人の人が会をひらく所」と思っていました。けれど、この見学をしたり、おじさんの説明を聞いたりして、公民館では一年間の仕事の計画を委員会を開いて決めるといふことや公民館を建てる費用は国、町から出されているということがわかりました。

公民館では図書のかし出しや習字を習ったりすることは勉強でわかっていました。クラブのことも社会の本に書いてありましたが、大熊の公民館にもあるかわかりませんでした。この見学でクラブがあることもわかりました。ぼくたちが行った時は、「手あみクラブ」が開かれていました。そして公民館はぼくたちも町の人々にもたいへんやくだっていることもわかりました。多くの人たちが集まってしゅみや習いごとをするのはとてもいいことだと思います。ぼくは読書がすきですから、これからは、公民館の図書の本もかりて読んでみたいと思います。それに早く移動図書館車「ひまわり号」がでないかなと思います。今度、もっと作品展を多くしてもらいたいし、図書の本をふやして、もっとたくさんの方がかりばいいなと思いました。この見学をして、もっと公民館のことにくわしくなっていきたいと思えます。そして大人になってからとまどわないようにしたいです。それに、今度からできるだけ公民館のぎょうじにさん加したいです。

清流

青年会という、発足当時は、各部落ごとに結成されて活動してきましたが、現在は中央青年会として一つにまとまって活動しています。会員は、町内在住の青年達二十数名で活動しています。青年会とはどのような活動をしていますか。未だ知らない人が多いと思います。紹介したいと思います。



青年会活動に思う

大熊町青年会長 末 永 公 盛

若者達は、「青年会」と聞くと「お堅い団体」であると想像すると思いますが、そうではないのです。昨年までは町から活動費として活動など色々あります。しかし、動計画を立てています。活動内容としては、大きく分けるとボランティア活動、スポーツ活動、交流活動など色々あります。それぞれ仕事をもっている人が多いため月に一回か二回位しか集まって活動できません。又、集まる時は夜になったり、日曜祭日に

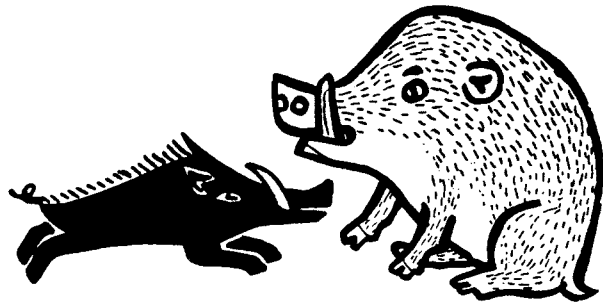


私の抱負



昭和46年生 辛亥

新しい年をむかえて、今年はいのしし年、私の年です。//
 とうとうまっていた、いのしし年がやって来た。
 自分の年なので、とってもうれしく思います。
 四月からは、六年生最上級生です。私には兄弟がいないので、四月に入学する一年生のお姉さん役



熊二区 小林 友里

やさしく、やさしくめんどうを見てあげたいと思う。
 そのためには、いままでとはちがって、心を入れかえた新しい自分を作ろう。
 勉強も運動もがんばりたい。父母や先生の話をよく聞き、友達とも仲よくして小学生時代の思い出をすばらしいものにしたいと思えます。いのしし君が守ってくれるだろう//
 父母からいただいた一つしかな

原点に立って



昭和34年生 己亥

下野上三区 藤 森 幸 喜

諸君らは、決して容易ではない現在の日本の農業を背負って立つ若者である、現在日本の農業がかかえている諸問題を、ひとつひとつ解決し、前途ある明るい将来を築いて下さい。などと励まされ某学校を卒業して、はや三年になろうとしている。
 まさしくそのことは、本当だった。天候不順・冷夏・台風などの被害による三年続きの不作は、

初もうで 家族そろって熊川へ

豊作の年を一度も経験していない自分に、かなりのショックを与えた。これでは、明るい将来どころか、これから先大丈夫なのだろうかと不安になり、暗いイメージさえ浮かんでくる。反面今年こそは、去年までにはなかった年にしたいものだなと期待している。
 いがいと軽視されがちな農業であるが、そんなこともない。一年を通し、いろいろと手を加え、ひとつのものを生産し出荷するということとは、なかなかやりごたえのある仕事でもある。また、自分の時間もかなりもて、青年会や青年

一つ一つの努力を



昭和22年生 丁亥

明けましておめでとうございませう。いつものように、昨日から今日への移り変わり、そして昭和五十八年との出会いの一瞬を迎える。
 三年続きの不作と不況に暮れた昨年を思う時、今年こそは良い年にと願わずにはおれません。今年二人の子どもが、それぞれ小学校・中学校の最上級生へと進む年でもあり、期待に夢がふくらむ思

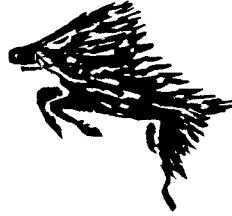
小入野区 根本 友子

いです。「過大な期待は子どもにとっては負担である」と言う言葉をよく聞きますが、やはりそれが親心ではないかと思えます。しかし、非行の低年齢化の時代に期待ばかりしておれません。身近な所で現実に行っていることが起きていると聞けば、「わが子は？」と思うのも親心。機会のあることにいろいろな会合にも出席致しました。確かに、マスコミ関係の過大表現にも問題はあるのかも知れませんが、私なりの結論からすれば、「子どもは親が守るしかない」ということでしょうか。



学級にも参加している。それらは人との出会いの場であり、社会勉強の場でもあるため、自分自身の人間形成にも大いに役立っている。
 まだまだ若い亥年生まれであるが、いっぱいやりたいことがありすぎて、何からやり始めたら良いのか、わからないのが現状である。家業にしても、いままでの失敗を繰り返さないようにとつとめ、何事も中途半端にならぬよう一日、一日ガンバリたい。明るい将来を築くためにも、もう一度原点に立ち還り明日に飛躍をと、新年早々こう思うのである。
 生まれて三十余年、母親との出会いから始まり、そして子どもが成長するにつれて実に数多くの人々との出会いがありました。仕事をもちながらいろいろな役を引き受けるのも、大変なことは承知の上。人と人との出会いが楽しくて、又それによって私自身が少しでも成長できればと願いながらのことでした。おかげで良い友人にも恵まれ、つくづく幸せを感じるこの頃ですが、今年亥年、「猪突猛進」とか言われますが、私は生まれ年には関係なく、何事も一つ一つ努力を積み重ねることによって、あと何回亥年がまわって来ようかと「頭」「心」「体」とも健康でいたいと願っております。

迎春



新年を迎えて

年代ごとに亥年生まれの方々にご執筆いただきました。それぞれ、人生の楽しさや役割などをかみしめながら新しい年を迎えられたことと、思います。町民の皆様と共に喜び申し上げます。

生き甲斐

町区 武内 友子



昭和10年生乙亥

明けましておめでとうございませう。新年にあたり私のような者が投稿の機会を得られましたことを光栄に存じます。さて、私四回目の亥年を迎え、心を新たに「今年も健康で幸せな年でありませう」と祈りながら家族揃って除夜の鐘を聞く、昔から人生わずか五十年と言われますが、今やわが国の女性ライフサイクルの変化も大

きく平均寿命がなんと七十九歳となった今、ふり返って見ますとこの長い人生の中で私は三人の子供を生み育てることに喜びを感じ、それが母親の特権であると信じ、ただ子供を生き甲斐に半生を過ごしてまいりました。その子供達も成長し、就職に大学にとそれぞれ希望に向って上京して行った後の空しさ寂しさは何だっただろうかいつも心の中では「子供達よ早く大きくなって一生懸命勉強して立派な社会人になってくれ」と祈り、早かれ遅かれ巣立って行く日が来

るのを予期して居なかつたわけでもないのに：やはり別れのつらさはひとしおです。南の空に向って子供達の安否を思い涙を流しぼんやりとした空白の日が幾日か有った事も思い出されます。「子を持つ親の恩を知る」と云う諺の意味が今本当に理解出来るような気が致します。私が嫁ぐ日、母が私のために涙を流して別れを惜しんでくれた日もつい先のように思われます。親孝行をしなければいけないながらもそれは大変むずかしい事なのです。私の母は、今九十一歳で健在です。母は母なりに嫁と姑の仲も良く、孫や曾孫に囲まれ、余生を楽しく過ごして居られます。母の懸命に生きて居られ

健康と優しさ

夫沢一区 岡田 為之



大正12年生癸亥

一九八三年の陽が、今悠久を生きて、なお生き生きと太平洋より昇りはじめました。私はその鮮やかな光の中に立ち、この大いなるものの恵みと、とるに足らぬ自分をごこ迄支えてくださいました皆様へ感謝の思いに満されつつ静かに冥想にふけております。やさしく・美しく・良き思い出の皆様が新しい年も、おすこやかにご多幸

であらせられますようにと、ふりかえってみますと、三年続きの冷害で前例のない不作不況高度成長路線を進んできた経済も、いまや大きな転換期を迎えている今日です。幸い当町には原子力発電所があり、農外収入が身近にあり、出稼ぎに出る心配もないのが幸いです。七か月余の重苦しい入院生活を過ごしてきましたが、往時の健康を思い出し、悔まれてしかたがありませんでした。数多くの方達の温かい激励の言葉に感謝致し、

町民憲章

健康で楽しく働ける 豊かなまちを つくりましょう
 みんなで助けあい 明るいまちを つくりましょう
 きまりを守り 平和な住みよいまちを つくりましょう
 自然を愛し きれいなまちを つくりましょう
 進んで学び 香り高い文化のまちを つくりましょう

七十余年の思い出と私の余生



明治44年生 辛亥 下野上五区 河西カツ

めぐりめぐって亥年を迎える事五回目、何だかあつという間に過ぎてしまったようでもあり、又一方では七十余年よくも無事で生き長らいたものと思われる此の頃です。

下野上五区 河西カツ

亥年生まれはどこまでもつづける性分とか、私もそれに違わず何か始めるとどんな事があつても完達せずば、倒れても止まずの性分

で、家計簿日記も書きつづけて五十年、暮れの大掃除に昔をしのび、すすけた頁をめくって見て、二十代頃安月給で、転勤も多く家計のやりくりの連続から、戦時中多数の子供をかかえての食糧難、物資不足の耐乏生活、現在までの物価の上昇、世のうつり変りがドラマのように転回されて、私一代の歴史として書き残してよかつたと思つております。年と共に記憶がうすれる此の頃、記録しておけばすぐ思い出されるし、又書くことによつて文字の勉強にもなりますので、

生ある限り続けたいと思ひます。長い人生には悲喜こもごもありませんが、今嬉しい事は子供が無事成長して、人並とは言えないまでも、家庭を持ち兄弟仲良く助け合つて、親に心配かけないようになつてくれたことで、特に毎年夏に観光地で、旅行を兼ねて家族全員の兄弟会をやり、親が招待されることが楽しみの一つです。若い頃からの責任もなくなつた今、若い頃からあれもこれもとやりたくても出来なかつたことが、山ほどあります。二、三年前から園芸と手芸のNHKのテキストや通信講座による勉強を始めました。又、気の合つたグループで藤上芸を始めたり、恍惚の人にならぬよう思考

家庭円満と健康



明治32年生 己亥 小良浜区 佐藤善一

私が小学校に入学したのは、明治三十八年の日露戦争が終結した年でした。それから八年、熊野小学校の尋常科と高等科を経て、新山の高等三年に通い、卒業してから農業に足を入れ、今年で八十四歳になります。あまり丈夫な方ではありませんが、毎日を楽しみ生きて居ります。百姓を始めから六十七年間、世の中も随分変わ

小良浜区 佐藤善一

した。同級生も生きて居るのは四、五人だけとなり、淋しさも又一入です。明治天皇崩御・関東大震災・太平洋戦争と大変な経験をしましたが、戦後三十有余年以上も経つて太平の世の中となり、生活も変わりました。

百姓の仕事も昔の手百姓からすべて機械化してしまい、金はかかるでしょうが随分と楽な農作業に変わったもので、昔を思うと本当に夢のような気がします。戦争前は大した娯楽もなく、毎日の仕事に追われ通してました。子供達の成長

追われ通してました。子供達の成長

追われ通してました。子供達の成長

追われ通してました。子供達の成長

スキー教室 参加者募集

- ・対象 中・高校生・一般
- ・募集人員 各回四十五名
- ◎第一回目 一月二十四日
- ・宮城蔵王えぼしスキー場
- ・会費 三千五百円
- ◎第二回目 二月十三日
- ・山形県米沢スキー場
- ・会費 三千五百円
- ◎スキーバスの出発は、毎回大熊町公民館前午前五時三十分です。
- ◎参加費を添えて体協事務局(スポーツセンター内)三六〇(四番)まで申し込み下さい。貸スキーセット二千円で幹旋します。

スポーツ功労賞受賞

夫沢二区 池下 廣

永年にわたり柔道指導者として地域スポーツの振興に貢献され、社会体育に功績、その栄誉をたたえ、去る五十七年八月二十二日原町市で開かれた県民スポーツ大会の席上、スポーツ功労者として市町村体育協会相双地域連合会スポーツ功労賞を受賞した。

体育功労賞受賞

野上四区 吉田 義貞
熊川区 松永 久子

永年にわたり社会体育に功績のあつた吉田義貞氏と松永久子さんは、去る五十七年九月二十三日双葉町で開かれた第二十回双葉郡総合体育大会の席上、社会体育功労者として双葉郡体育協会体育功労賞を受賞した。

吉田義貞氏は、部落体育部長、大熊町体育指導委員を歴任し、現在大熊町体育協会副会長として活躍、また、松永久子さんは、大熊町体育指導委員を歴任、大熊町体育協会家庭バレーボール部長として活躍、その栄誉をたたえられ、今回の受賞となった。

心が一つになる時

大野小学校教諭 泉 秀子



昭和57年度 優秀児童表彰演奏会

十一月二十八日に行われた学習発表会をもって、今年度の合唱クラブの活動を終わりました。一番ホッとしているのは子供達でしょう。「ぼくのおよめさん」である「チ

コタン」を一人一人の心に描いて十か月。長い道のりでした。今、かつての様々な練習の録音やコンクールのもを聞いてみると、その様子が目に浮かんで来てなつかしい気持ちになります。つらかった夏休みや放課後の練習、苦しい腹筋運動、困難な歌い方の要求などに耐え、上達し、大きなステージに立つことができた。反響板などの設備が整っているステージに立つことができたということは子供達にとって良い思い出となったことでしょう。コンクールの審査は、やり直しのできない、良いところのつぎはぎができない、たった一回の演奏で行われる。恐ろしかったと思う。緊張したと思う。fからなら声も出しやすいだろうが、f、しかもやわらかな母音に子音をのせる。出すのが恐ろしかったと思う。ハ一モニーをこわすのではないかと。何百回(?)と歌ってきた成果がほんの五分三十秒で終わってしまう。何と恐ろしいことだろう。それだけに気迫のこもった演奏が、音楽がそこに生まれる。

考え方、感じ方は十人十色。四十一名様々。だが、ステージに立ち、棒を見て歌う時には心が一つになっている。心が一つになり音を創る。そこに計り知れない大きく深い「ぼく」がいた。胸がつかまる思いでした。よくやった。子供達に拍手を送りたい。今後、「チコタン」を歌うことにより得た発声の技術や歌心を他の曲にも生かして欲しい。そして、一步一步前進していくことを願っている。

国体に参加して

熊二区 元木 寛治



十月三日から六日間にわたり、第三十七回国民体育大会が神話の国島根県で、くくびき国体々をテーマに「このふれあいが未来をひらく」をスローガンに開かれた。私はこのくくびき国体の弓道競技に福島県代表として参加いたしました。弓道競技は、国引きの伝説で知られている国立公園三瓶山の麓大田市の県立大田高校弓道場で全国の精鋭二八五名が熱戦を繰りひろげ、どれも素晴らしい中でした。会場は申し分なく、市民総出の奉仕には心温まるものがあり、競技場に臨設されたの。ではまた格別のものがあり、一射、一射に全魂を尽して行く競技の合い間の茶

の一服は緊張した心に安らぎを与えてくれました。大会の結果は、福島県チームとしては十年振りの予選通過であったが決勝トーナメントでは残念ながら一回戦で山梨県に敗れ、十六位に終わりました。しかし、全国の強豪揃いの中で自分の射が引けた感激は、私にとって大きな自信につながると共に、まだまだ自分の射が未熟であったことに、これからの弓道修練に大いに励みになるものと確信しております。今後、この経験を生かし、さらに精進していきたいと考えております。

社教・運営委員を委嘱 体育指導委員も任命する

- 大熊町の社会教育関係委員(社会教育委員、公民館運営審議委員・体育指導委員)の任期満了に伴い、新しい委員を十二月一日付でそれぞれ委嘱状を交付しました。今後又、それぞれの立場から社会教育の振興とスポーツの普及のため、ご活躍されることとなります。
- また、この程各委員会を開催し、委員長・副委員長を決定するとともに、委員の職務と今後の課題等社会教育の重要性について相双教育事務所の佐藤義光先生等を講師に招き研修会を開いた。
- なお、各委員とも任期は昭和五十七年十二月一日から昭和五十九年十一月三十日までとなります。
- | | |
|--------------|-------------|
| 大熊町社会教育委員 | 委員長 志賀秀朗 夫一 |
| 副委員長 | 志賀トリス 町 |
| 委員 | 小林光一 大熊中 |
| 委員 | 竹並孝 大和久 |
| 委員 | 渡辺博之 大二 |
| 委員 | 佐藤祐禎 小良浜 |
| 委員 | 志賀敏男 大一 |
| 大熊町公民館運営審議委員 | 委員長 渡辺清 下四 |
| 副委員長 | 泉田澄子 大二 |
| 副委員長 | 鈴木保藏 野上三 |
| 委員 | 永岡英一 大和久 |
| 委員 | 吉田和男 野二 |
| 委員 | 菅野良久 野四 |
| 委員 | 石田宗昭 大三 |
| 委員 | 岡田為之 夫一 |
| 委員 | 大崎猛 大小 |
| 委員 | 吉田茂 大和久 |
| 委員 | 根本忠孝 野一 |
| 委員 | 千葉幸子 町 |
| 委員 | 鎌田清衛 野馬形 |
| 委員 | 金沢健康 熊二 |
| 委員 | 中島幸広 下二 |
| 大熊町体育指導委員 | 委員長 常盤利昭 下五 |
| 副委員長 | 末永精一 町 |
| 副委員長 | 大竹保 下五 |
| 委員 | 片岡重行 下三 |
| 委員 | 志賀秀栄 夫一 |
| 委員 | 小野田正一 下二 |
| 委員 | 村上作之丞 大和久 |
| 委員 | 相良雄史 下五 |
| 委員 | 吉岡孝雄 大和久 |
| 委員 | 松本光清 熊川 |
| 委員 | 元木寛治 熊二 |
| 委員 | 牛来清政 野馬形 |



「ヤー、メーン」
面打ち、小手打ち、二段打ち
「コテー、メーン」
みんなの声が大きくなる
体育館のガラスがわれそうだ
寒さはどこかへとんでいった
体がぼかぼか
気持ちはさっぱり
剣道はすばらしい

文芸

詩



剣道

大小五年 岩本 和裕
「寒い、寒い」
手足がびりびりする
先生の声が体育館にこだまする
「一、二、三」
に合せて準備体そう
すぶりを何回も何回も
くりかえす
「めんつけ」
みんな早くパツ、パツ
動作はすばしっこくはやぶさのよ
う
「ヤー、メーン」

うれしい心

大小五年 大谷内智代
「あけましておめでとう」
楽しいひびきをこめて
だれとあつても
うれしそうに
「あけましておめでとう」
「あけましておめでとう」
楽しそうな顔
うれしそう顔
みんな
新しい年にふさわしく
心も体もかがやき生きている
「あけましておめでとう」

初日の出

大小五年 林 美香子
毎年 初日の出を見る
太陽が 海から顔を 出す瞬間
海と空に まっ赤な絵の具を流して
新しい年の始まりをつたえている
世界中の赤の絵の具を
初日の出は 全部 買い集めた
そしてまた 今年も海と空を
まっ赤に そめるだろう

今年はいのしし

大小五年 志賀 幸二
今年はいのししどし
まっ赤にもえ出る はつ日の出
そして 願ひごとをたのむ
きつといのししも山の上で
見ているだろう

テレビ

大小五年 渡辺 邦浩
スイッチをおすと絵がでる
まほうのはこ
いろいろな言葉をしやべる
まほうのはこ
いろいろな音を出す
まほうのはこ
まほうのはこ
このまほうのはこは
人間に
あらゆる出来事を
新しい店や食品が出来た事を
おしえてくれる

短歌

小林 かおる
桃苑の雅号もたれる皇后の「葉山
初冬」にこころうたるる
一重咲きのうすくれないの山茶花
は深まる秋に静けさ溢ふ
鈴 木 百合子
裏山も変りて現在^{いま}は公共の施設整
ひ人ら楽しむ

やうやくに乾きし株田の耕耘を明
日始めむに夜半雨となり
本 多 睦 子
夫と行く飛驒の旅程は秋暮れて合
掌作りの屋根に霧ふる
旅に出てふれし心のあたたかさ飛
驒高山の訛ゆかしく
郡 司 勝 雄

俳句

佐藤 祐 祐
若くして夫を失ひ今は息子を葬ら
むひとの顔見るを得ず
声絶へてひそとしづまる湯の宿に
流るる鬼怒の川の瀬の音
中山 貞夫

秋の市孫にせがまる綿菓子に吾が
遙けき思い出うかふ
秋市に購ひきたるあみず苗すこや
か願ひて背戸に植ゑ込む
飯 田 良 江
軒さきの雀の巣より長々とビニ
ルのひも垂れて揺れ飛ぶ
風吹けば葉裏は白く見ゆる如く吾
にもありぬ裏と表と
渡 部 富久子
放課せし教室に静けさ戻りきて椅
子引き寄せれば菊の香匂ふ
露店並ぶ雑踏ゆけば声のしてふり
向けば手をふる教へ子のあり
鎌 田 清 衛

妻の忌の冬来る畳替えにけり
フルートを吹く娘の息のほの白く
闇を打つ軒の風鈴秋深し
かきこそと落葉のささやき梨畑
愚痴こぼしざらりと帰る秋の暮
梨一つ大事に持って留守居の子
猪 井 静 枝
ふりむけば尾を振る犬や白木種
老斑の増えし夫の手冷たくて
ひそ 六十路にて厨妻なり冬に入る
新米の匂い厨に広がれり
結 城 千 代

たて穴式住居の跡より見下せば風
磯に釣る今もむかしも
傾きし陽は丈低きわが身をもお釜
に吸はるるとき影引く
相 田 美恵子
病癒え菊を培ひ咲かせしとあまた
飾りしを友とめである
日記帳の古きを解けば紅き葉とヤ
ンバルクイナの切り抜きあり
吉 岡 とも子
コンパインの借金漸く終りにカ
タログ抱へしセールス訪る
今年こそ願ひもむなし抜くほど
に摺るほどに米の袋少なし

濡れ縁に秋の日浴びて病後の身
新米に白菜そえし今朝の膳
肩はそめ蜂りんどうの花に入る
菊の香やまこと新しわが雅印
海鳥のかたまり遊ぶ鮭の川
牧草の束ねられゆく翹雲

旅先の栗駒山に雪来たり
かさ／＼と落葉ころる夕べかな
いつしかに十六夜の雨あがりけり
いつの間に咲きし紫苑ぞ雨の中
菅 野 ミヨ
新米に白菜そえし今朝の膳
肩はそめ蜂りんどうの花に入る
菊の香やまこと新しわが雅印
木 村 容 子
海鳥のかたまり遊ぶ鮭の川
牧草の束ねられゆく翹雲



「若人の翼」に参加して

下野上二区 中島 幸 広



▲民泊先の家族と一緒に

若人の翼に参加し欧州三か国、ドイツ・オランダ・フランスと諸外国の見聞を広げる事が出来ました。

訪問前に、私たちが抱いていたこれらの様子は、私たちの生活と同一のものと感じていましたが、

人々との接し方が多少なりとも私たちとは違いが見られたようです。それを一番感じられた事がドイツのホームステイからです。私たちが二泊三日の短い期間ではありましたが、外国の家庭に入り込

み、その中で感じた事は、個人としての尊重性というものでした。私がお世話になった家庭は娘が二人いましたが、親が子どもとしての対処の仕方以上に、個人としての子どもたちへの尊重が日本以上に強いものと感じました。しかし、子どもたちも自分自身の行動に責任を持ち、親たちへの不安をつくらぬような行動がとられているのです。これは暗黙のうちに出上がっているルールだと思えます。日本では見る事が出来ない、親と子の信頼関係には本当にびっくりさせられました。家庭内においての日常の様子はどうかであろう。休日、子どもたちは伸び伸びと自分たちの計画で、それぞれ過ごしていたようです。自分で出来る事はすべてやってみ、自分たちが過ごしよくするためへの努力がうかがわれ、その中から物を大切に作る心というものが自然に出来るのではないかと思います。

最後に、欧州には今もなお徴兵制がとられており、私たちと同じ若者が二十歳になると兵隊として二年間過ごさなくてはならないと聞きました。ベルリンの壁にしろ軍事的な緊張感を初めて感じました私たちには、今まで感じなかった自分たちの生活、自分たちの国の素晴らしさを再認識するとともに今後、私たちも諸外国青年に負けることなく努力して行かなければならないと思えます。

大熊町短歌会が発足したのは昭和五十四年のことであった。五十八年の今日に至るまで、小さい規模ながら着実に歩み続けて来たという事は、会員の一人一人が心から歌を愛していることにつきると思う。講師は浪江町幾世橋在住の青田サダ先生である。先生は曾て勅題和歌に当選された実績を持つ方であり、毎月一回第二土曜日午後一時から大熊町公民館で添削指導を受けている。詠草を会員三首つつ提出しておいて、その指導を受けながら会員同志の意見交換などを通して、切磋琢磨し合っているのが現状である。歌集あゆみを発行し、昨年四月二号を発売した。無償で愛好家に贈呈している。人間はパンのみに生きるにあらずと云われるが、近代社会に於いては特に痛感させられる問題ではなからうか。物質文明の発達と共に、人間関係の悪化を嘆いて居られる方々も多いと思う。物の深

趣味と短歌

大熊町短歌教室 佐藤 祐 禎

御札
△図書への寄贈
このほど、志賀周平さん(下野上四区)より「銀嶺の人」外百二十一冊、高嶺るみさん(夫沢三区)より「幼児の心

理」外一冊の図書を寄贈していただきました。厚く御礼申し上げます。



流水は還らず

私が青年学級に参加していたのは昭和三七〜四十年頃でした。早いものであれからもう二十年が経過しようとしている。師走になるとクリスマスパーティーらしきことを行い、学級生が料理実習を兼ねて料理を作り、農業改良普及所の先生方も参加して結構盛大に、当時の板張りで薄暗い公民館で楽しい一日を過ごしたものです。研修旅行も資金難の為に公民館前の畑（現在の公民館前庭、芝生）を借りて野菜や花を栽培したり、秋にはみんなで稲刈りをして費用の

足しにしたものです。

そのパーティーで社交ダンスを踊ってみたいなどという声が多く、何度か公民館にダンス教室を開催する旨申込みましたが、当時はまだ受入れられなかったのです。当時はバイク全盛の頃でした。公民館を一步でると気軽にお互いが語り合う場所がなく、「大熊にも喫茶店が欲しいなあ」と寒さの頃になると話題になりました。

私が青年学級をやめる頃から原発の建設が始まり、それに伴って公民館も新たに建設される頃になると喫茶店も出来、また公民館を利用するのダンス教室も開催され

るようになり、福島県のチベットの言われていた双葉地方も原発建設により、眠れる獅子が一気に走り出したように時の流れが騒々しく過ぎ去りました。あれから十七、八年が経ってしまいました。

現在六、七十歳の人達は青春時代を戦争という大きな壁を、犠牲を払いながら乗り越えてきました。その方々の記憶の中に戦争が占める比重は相当なものであろうと思

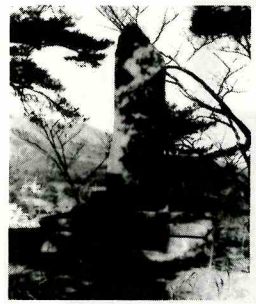
う。その戦争も突入から敗戦までは三年八か月余り、戦争への不安が台頭してきた昭和初期からでも敗戦まで二十年は経過していないの

です。戦前を生きてこられた人達は将来をどう思い、どう感じて毎日を送ってきたのでしょうか。何時も戦争という不安が心の中に内在していたのではないかと思うと、現在の私達には理解し難い青春時代であつたらうと思う。

それがどうでしょう。大熊町に原発建設が始まってからまもなく二十年になろうとしているのです。私にはまたたく間に過ぎ去つたという感じがしてなりません。それまでの大熊町は、熊川の流れて落ちたもみじ葉のようにゆるやかに時には淀に停滞していたりの暢気な時の流れでした。原発建設が始

まってきたらうと思つて、大洪水の時

町史探訪



先民遺徳碑

大正八年大川原頭森公園に建てられた碑である。大川原故石田弼常氏（元大野村長）が福島市役所に勤務中に同志とはかり建てられたもので、桐谷文平氏の撰による碑文がある。内容は

むつかしい漢語が多いので大要は次の通りである。

あの山この田野は郷党の先民が開拓し活動した所であり、そこには良風美俗があった。林野の繁茂と質朴な風俗は先民が殖産興業に水利交通に救済賑恤に教化育英に或いは忠孝節義に率先して郷人に模範を示したためである。これを飾るのには美しい文芸美術があった。これはみな先民の努力の賜である。

ここに有志相はかつて先民遺徳碑を建てることになった。先民の功績を記録して不朽に伝え郷人を奮奮興起せしめ先民の遺図を記録して益々郷土の美風を振作しようと思う。先民の徳は山のように高く川のように長い

といふべきである。

大正十四年石田氏は「先民伝」を編集して部落民に配布した。昭和四十三年十月十五日、大熊町家庭教育学級開講の日、渡辺清さんが先民伝を公民館に携行された。この年は明治百年記念の年でもあったので、当時の館長故吉田農夫雄氏が渡辺さんをお願いして増刷することを許してもらつたと記録されている。

この中には大川原の先人二十九名の伝記が伝えられている。附録として俚謡のついでに、その中の教訓を書いてみよう。相馬藩政時代模範の大川原村風よ吹け吹け模範の村に昔しや爺さまを吹いた風馬の産地大川原村

馬は二歳子馬喰、はいさみ桜盛りの大川原

杉の名所お手倉山杉の林に朝日が光りやお手倉山に穂が光る頭森から先民の遺徳を偲びて頭森から見渡せば露の青田や草の野辺野辺の彼方に帆は渡る青海原も吾が天地（松本幸一）



もうこれ以上激流のみ込まれないようにしようと思う。

元の大熊川のおだやかな流れに乗って、ゆっくりゆっくり周囲を見つめながら下って行きたい。（元青年学級生）

まっつからの流れは、大洪水の時に起る土石流が周囲の岩石や草木をのみこんで一気に下流へ押し流すように、私達もいつの間にかその流れの中に乗せられていたの

編集後記

◎新年おめでとうございます。編集委員並びに担当者一同気持を新たにし、よりよい館報つくり邁進する所存です。今年も、昨年同様皆様のご協力、ご声援をお願いします。

◎館報の原稿をお寄せ下さい。要領は四百字詰原稿用紙一枚程度です。

◎主張、産業、教養、文芸に関するもの何でも結構です。

◎政治的な色彩を帯びたり、個人非難に属するものでないこと